

## (幸せを感じたあいさつ)

わが家に犬が来て5カ月。毎朝仕事に行く前に散歩をしています。その時にとてものがっかりしたことがあります。すれ違う自転車の学生さんが誰一人としてあいさつをしないことです。こちらからあいさつをしても黙ってうつむいて通り過ぎたり……。かぼそい声で返してくれる人もいるのですが、私の姿が見えると一つ手前の道に入り、避けて通る始末です。ただ一度だけ元気よく「おはようございます！」と声を掛けてくれた男子高校生がいました。うれしくて「おはようございます！いってらっしゃい！」と言うと「ハイ、いってきまーす！」と自転車で去って行きました。荷台に農林高校と書かれた部活のバックが積まれていました。何と気持ちの良かったことか。その日は一日中とても幸せな気持ちでした。また会えないかなと思いながら毎日散歩しています。

(平成28年2月22日山陰中央新報 出雲市、あいさつ大好きお婆さん、66歳)

これは2月22日の山陰中央新報に載っていた「出雲市あいさつ大好きお婆さん」が投稿してくださった記事です。2月16日の全校朝礼で、私は「心のこもったあいさつ」という話をしました。「みなさん一人一人が、校内でも、校外でも「心のこもったあいさつ」をしてほしい。そうすれば、必ずみなさんを取り巻く世界が変わってくるはずです。ぜひ実践し、世界が変わるのを実感してみてほしい」と話しました。

その後、生徒会長の奥井君、副会長の北脇君、北村さんが私と相談をしたわけではありませんが、主体的に全校生徒に校内外でのあいさつの励行を呼びかけてくれました。

この記事の主人公は、本校生徒であることは間違いありません。生徒会の呼びかけに応じて行動してくれたのか。そもそもこの生徒はしっかり挨拶ができていたのかわかりませんが、この挨拶ひとつによって、この「あいさつ大好きお婆さん」の世界は大きく変化をしたのは間違いありません。毎朝嫌な気分であったのが、一転幸せを感じる一日となりました。

世界を変えるなんてことは無理だ、とみなさんは思っているかもしれません。しかし、こうして挨拶ひとつで一人一人の世界を変えることができるということです。一人一人の行動には、社会を変える、世界を変えるそんな大きな力があるということです。逆に言えば、一人一人の行動がなければ何も変わらないということです。

平成27年度の締めくくりに、このような記事を紹介できたことは、この1年間のみなさん全員の頑張り、成長ぶりを象徴する素晴らしいことであると思います。平成27年度のみさんの頑張りは、99%以上の出席率、50%近くの皆勤率を見ても歴然だと思えます。その上に、各種検定、課題研究、部活動等での活躍は称賛に値するものでした。みなさんの成長点は太陽の日を受け確実に伸びています。

残念ながら、わが家の玉ねぎはあまり成長していません。これについては、今後私なりに分析し、来年度のどこかで「校長の玉ねぎ栽培日記」を発表したいと考えています。

本年度のみさんの健闘を讃えるとともに、来年度がみなさんのさらなる飛躍の年度になることを祈念して3学期終業式の訓話とします。